

高等学校 1年 情報科 学習指導案

「情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 光浦 弥幸

1 単元名

情報発信における留意点～コミュニケーションの多様化～

2 単元（主題・題材）について

(1) ねらいについて

近年の情報社会において、情報の発信・収集形態は多様化し、生徒の身近なところで数多くの情報が溢れている。特にインターネットの普及にはめざましいものがあり、コミュニケーションツールとして生徒にとっても身近な存在である。インターネットを通じた様々なコミュニケーションの特性、中でもデジタル化・ネットワーク化された情報の特性を理解し、それらに適応した表現力・判断力を身に付けることは、情報社会において欠かせない能力となっている。

また、携帯電話で Web ページを閲覧、書き込みをしている生徒も多く、インターネットにおけるコミュニケーションの特徴と危険性について考え、自らの体験を元にそれに対する対処法などを話し合う機会としたい。

情報科の目標の3つの観点の中に、「情報社会に参画する態度」を育成するという観点があり、その中でも情報モラルに関しては新学習指導要領でより重視される項目となっている。本単元では、現代の情報社会において情報機器により多様化するコミュニケーション形態とその特徴を知り、なぜそのような特徴が生まれるのかを情報の技術的な面から理解した上で、危険性から身を守り、より良い情報活用につなげる能力を身に付けることをねらいとする。

(2) 生徒の実態について（1年〇組在籍数〇〇人）

男子〇〇人女子〇〇人の計〇〇人のクラスであり、明るく素直な生徒が多い。ほとんどの生徒が携帯電話を持っており、使用用途は電話よりもメールや Web サイト閲覧が多い。プロフ・ブログなどの Web サイトを半数以上が利用しており、携帯電話所有者のほとんどが友人のサイトを閲覧もしくは書き込みをしたことがある。生徒の中には Web サイトの危険性を認知し、情報発信に気を配る者もいる中、安易な書き込みにより個人情報流布している生徒も見受けられる。

(3) 資料について

- 使用教科書：実教出版 『最新情報A』 岡本 敏雄、山極 隆  
第2章「ネットワークの活用」第3節「ネットワーク利用の心がまえ」
- 提示する web ページの例については、3段階の「個人情報や顔写真等が載っており、本名等が記載していなくても個人が特定できるような内容のもの」を利用する。

(4) 指導にあたって

- ア インターネットを通じたコミュニケーションについて、インターネットの特性を理解した上で考えさせる。
- イ デジタル化、ネットワーク化された情報の特性を理解させ、その特性によってどのようなことが起こりうるかを予測し、その対処法について考える。

(5) 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」項目「d 4～d 5：危険を予測し被害を予防すると共に、安全に活用する」「e 4～e 5：情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける」、「5. 公共的なネットワーク社会の構築」項目「i 4～i 5：情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる」との関連を重視して展開する。
- イ インターネットを通じたコミュニケーションについて、1対1、1対多などの形態や同期、非同期などの特性について意識し、その特徴について考える。
- ウ 具体例から危険性を発見し、それぞれの手段に応じた情報発信について理解する。

(6) 人権教育の視点

- ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。
- イ 他の人の意見も尊重しながら、共に学習しようとする態度を育てる。

3 単元（主題・題材）の観点別目標

関心・意欲・態度	コミュニケーション手段やそれらの特性、問題点などについて、積極的に話し合いに参加し考えようとする。
思考・判断	コミュニケーションにおけるモラルやマナーについて配慮する。 インターネットの特性による問題点を既習事項や実体験を通して考え、対策を考える。
技能・表現	課題について班ごとに積極的に討議し、その結果や検討事項を表現する。
知識・理解	様々なコミュニケーション手段や特性、それに伴う問題点について理解する。 デジタル化とネットワークの特性、それに伴う問題点について理解する。

#### 4 指導・評価の計画

	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
1	1 (本時)	インターネットにおける様々なコミュニケーション手段の特徴を知り、その長所、短所について考える。	コミュニケーションの形態と特性、それに伴う問題点について日常生活と照らし合わせながら考えさせる。	様々なコミュニケーション手段について学習できているか（ワークシート） 話し合いで積極的に発言しているか（行動観察）
	2	デジタル化とネットワークの特性を知り、その対処法について考える。	デジタル化とネットワークの特性を生徒が理解しやすいよう具体例を挙げながら説明し、対処法について考えさせる。	話し合いで積極的に発言しているか（行動観察） デジタル化とネットワークの特性を学習できているか (ワークシート)

5 本時の学習 ( 1 / 2 時間 )

(1) 目標

様々なコミュニケーション手段とその特徴について知り、起こり得る危険性について考える。

(2) 展開

過程	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点と評価	備考
導入 5分	①授業の進め方について知る。 「時代に伴い、様々なコミュニケーション手段が発達してきた。それらの特徴について考えていこう。」		広いコミュニケーションの定義から、インターネットのコミュニケーションについて学習を深めていく。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題</p> <p>インターネット上の様々な種類のコミュニケーションの特徴について知り、その特徴からメリットデメリットについて考える。</p> </div>				
展開 5分	② (Step-1) 紙→メディア→インターネットへの変容について考える。(情報の量、速度、信頼性、発信者に注目する。) なぜインターネットより紙やメディアの方が信頼性が高いのかを考える。	◎、○、△を記入する。おおよその記入はできる。  発信者が違うから、責任がかかるから、嘘を言うといひどいことになるから など。	紙やメディアと比べて、インターネットは量が多く速度が速いが信頼性は低いことに着目させる。 既習内容の信憑性についても触れる。	
20分	③ (Step-2) インターネット上のコミュニケーション方法について知る。 「インターネット上のコミュニケーションにはどんなものがあるかな。」	知っているものについては記入できる。それぞれ想像しながら記入する。	それぞれについて、どのようなものか画像を見せながら説明を加えていく。	
5分	④インターネットの特性について、同期と非同期、1対1と1対多の通信について考える。 「1：多、非同期ということは、どのような特性があるのだろう。」	適当な方に○をつける。ほとんどが回答できる。  ・多くの人が見る ・時間が経過してから見るので誤解が生まれやすい	それぞれについて、どのようなものか画像を見せながら説明を加えていく。  評価 ワークシートにまとめることができているか。	
			インターネット上には様々なコミュニケーションツールがあるが、1：多と非同期のものが多いことについて触れる。	

<p>10分</p>	<p>⑤ (Step-3) 前回学んだことを生かして、具体的な危険性について考える。 「例に挙げたプロフから考えられる危険要因→結果(被害)を予測してみよう。」</p> <p>⑥班ごとに危険性を考える。</p> <p>⑦発表</p>	<p>住所や学校名が載っている、顔写真が載っている、友人も写っている⇒詐欺に遭う、ストーリーされる、いたずらに使われる、友人が被害に遭う。</p>	<p>個人情報に記載してある、はっきりとした顔写真が掲載してあるなど、生徒が掲載しがちな問題のあるプロフの一例を見せる。</p> <div data-bbox="986 450 1401 636" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価 既習事項や自分の体験をもとに積極的に意見を出すことができるか。</p> </div> <p>活発に発言できるよう例を挙げる。</p>	
<p>終末 5分</p>	<p>⑧まとめ 「コミュニケーション形態は多様化しており、それぞれに合った情報開示をしなければならない。危険性も考えながら使用することが大切である。次回はインターネットの危険性について、その特性から考えていこう。」</p>	<p>本日の学習内容を振り返る。</p>	<p>インターネット上のコミュニケーション手段には様々なものがあり、それによって発信内容を注意・工夫していく必要がある。</p> <p>ワークシート回収</p>	